



堀船中だより

心身ともに健康にして、国際的視野に立って社会に貢献し、自立した人を育成する。

教育目標

自ら学び 自ら考え 自ら行動できる生徒

《令和5年度 第43回 少年の主張発表大会が堀船小体育館をお借りして開催されました》

10月14日（土）、少年の主張発表大会が開催されました。前半に行われたあいさつポスター・標語の表彰式は、三校連会長・本校PTA会長の小林様を始め、PTA役員のみなさまが担当していただきました。

【三校連あいさつポスター・標語入賞者】

＜ポスター部門＞

祝 優秀賞

2年生 石川さん・峯村さん・小林（紗）さん

祝 優良賞

1年生 小山さん

2年生 新川さん・田端さん・小橋さん
・竹本さん・陳さん

＜標語部門＞

祝 優秀賞

1年生 今さん

『あいさつをした喜びとされた喜び 世界に広がる』

2年生 伊藤さん

『あいさつは 会って最初の 贈り物』

3年生 前川さん

『一言で 感謝伝わる 「いただきます」』

祝 優良賞

1年生 高森さん

『あいさつは 明るい声で 相手見て』

1年生 園田さん

『あいさつは 世界共通 みんなする』

2年生 新川さん

『増やそうよ ごめんじゃなくて ありがとう』

2年生 木内さん

『絶好調 気持ちこもった 挨拶で』

3年生 柴田さん

『目を合わせ 気持ちを込めて あいさつを』

3年生 境さん

『言ってみて 一つのあいさつ 百万の笑顔』



【主張発表】

- 『薬は決められた量で』
堀船中学校 1年 田村さん
- 『言葉の選択肢』
堀船中学校 1年 前川さん
- 『平和なSNSにするために』
堀船小学校 6年 西田さん
- 『生きるということはつながること』
滝野川第五小学校 6年 藤田さん
- 『思いやりを持って』
堀船中学校 2年 堀江さん
- 『困ったときには頼って』
堀船中学校 2年 師星さん
- 『伝えることの大切さ』
堀船中学校 3年 中谷さん
- 『祖父の話』
堀船中学校 3年 馬場さん



【3組 学級紹介と音楽発表】

二宮さんによる学級紹介の後、3組のみなさんによる素晴らしいハンドベル演奏と手話合唱が行われました。

少年の主張発表大会当日の「校長謝辞」を掲載して、みなさまに感謝申し上げます。

「本日は、北区長代理、北区教育委員会教育振興部長 小野村弘幸様、北区議会議員 金田よしあき様をはじめ、多くのご来賓の皆さまのご列席をたまり、第43回の「少年の主張発表大会」を開催できましたことを心より感謝申し上げます。

そして何よりも、子どもたちのために、このような発表の機会を与えてくださいました青少年堀船地区委員会 会長 太田斉様、北区青少年昭和町地区委員会 会長 議波壽男様、さらに、堀船町会自治会連合会会長の榮隆男様、昭和町地区自治会連合会 会長 松本晴光様をはじめ、たくさんの地域のみなさまに、感謝の気持ちでいっぱいでありました。本当にありがとうございました。

また、本日、堀船小学校の体育館を会場としてお借しくださった松本校長先生をはじめ、職員のみなさん、児童のみなさんにおかれましては、様々なご準備をしてくださったことを心より感謝申し上げます。

堀船小学校、滝野川第五小学校の児童のみなさん、そして堀船中学校の生徒のみなさんの代表者の発表を聴いて、大変感動いたしました。何より、私自身も学ぶことばかりでした。時間の関係上、一人一人の講評は割愛させていただきますが、どの発表も実に素晴らしい内容でした。また、発表者の堂々と落ち着いた話す姿から、これから次代を担っていくみなさんのたくましさを感じました。～略～

この大切な力の育成に際して、第43回という長い伝統をもつ少年の主張発表大会は、児童・生徒のみなさんが自ら考え、判断したことを主張し、会場内の大勢のみなさんと考えを共有し、さまざまな課題に対する解決策を見出していくことに大きく寄与する、貴重な行事であると強く思っております。そして、この会場にいる生徒のみなさんが今日の発表を聴き、自分のこととして受け止めていくことで、より良い人生を送ることができることを確信しております。

堀船中学校は、9月から改築ステーション桜田に移転しました。例えば、校舎が移転しようと、この少年の主張発表大会は永遠に続くこと、そして地域を愛する心を持ち、どんな世の中にも対応できる子どもたちが育っていくこの素晴らしい伝統を守っていくことをお誓い申し上げます。～略～

《喜びあふれる最高のほりふな祭でした》

2週にわたり堀船小学校の体育館をお借りして、10月21日（土）「ほりふな祭」を行いました。保護者の皆様・地域のご来賓の皆様・卒業生のみなさん等、計212名もの方にご来場いただきました。本当にありがとうございました。関係していただいた全てのみなさまに、感謝の気持ちでいっぱいです。



《区民祭りボランティアのみなさん、本当にありがとうございました》

10月7日（土）・8日（日）の両日で、北区区民祭りが開催されました。飛鳥山会場と滝野川会場で2日間に渡って合計23名の堀中の生徒のみなさんがボランティア活動に参加してくれました。地域のみなさまとともに働くことで、地元を愛する心や、感謝の気持ちや思いやりの心に触れて、温かい気持ちになりました。秋休みにもかかわらず、ボランティア活動を一生懸命してくれた生徒のみなさん、そして、このようなボランティア活動の機会を与えてくださった地域のみなさまに、改めて感謝申し上げます。



《祝 第59回北区連合体育大会入賞者のみなさん おめでとうございます》

9月22日(金)、第59回北区連合体育大会が板橋区の新河岸陸上競技場で行われました。一日中雨天の予報だったため心配でしたが、雨も止み、次第に晴れ間が広がる中、堀中生のみなさんは全員自己ベストを目指して大いに健闘しました。入賞者のみなさん、おめでとうございます。

2年生	青山さん	1・2年男子走幅跳	第1位
2年生	師星さん	1・2年男子砲丸投	第2位
3年生	須田さん	3年女子800m	第3位
3年生	渡部さん	男子共通200m	第4位
1年生	眞砂さん	1年男子100mH	第4位
2年生	高野さん	男子1・2年走幅跳	第5位
3年生	三澤さん	3年女子100mYH	第6位
2年生	佐藤(有)さん	2年女子100mH	第6位
2年生	高橋(海)さん	2年女子100m	第6位
2年生	中嶋さん	1・2年女子走高跳	第6位
2年生	男子リレー	4×100mR	第6位
2年生	竹本さん	2年男子110mH	第7位
1年生	青木さん	1年男子100mH	第7位
1年生	村田さん	1年男子100m	第7位
1年生	女子リレー	4×100mR	第7位



《祝 バドミントン部秋季大会 男女とも団体優勝・個人も素晴らしい成績 おめでとうございます!》

10月8日(日)、バドミントン部秋季大会 団体戦が田端中体育館で行われ、堀船中は男女とも団体優勝を果たしました。さらに10月15日(日)には、バドミントン秋季大会 個人戦が滝野川体育館で行われ、

- 男子シングル準優勝 河村さん
- 男子ダブルス優勝 上浦さん 西丸さん
- 女子シングル優勝 石川さん
- 女子ダブルス第3位 内海さん 桂川さん

という大変見事な成績でした。毎日の鍛錬の成果がしっかりと発揮されました。本当におめでとうございます。



《祝 北区読書感想文コンクール入賞おめでとうございます》

北区読書感想文コンクール入賞おめでとうございます。

- 銀賞 2年 小林(紗)さん
- 銅賞 3年 牟田さん・1年 伊藤(由)さん

北区読書感想文コンクールという大勢の応募者数の中で入賞を果たすことは、容易なことではありません。改めて3名のみなさん、本当におめでとうございます。

《祝 北区小中学生アイデア工夫展 2年連続 優秀学校賞受賞》

アイデア工夫展審査の結果、入賞されたみなさんへの表彰式が10月26日(木)に北とびあにて行われました。本校では、

- 金賞「シャトルホイホイマシン」 2年 石川さん
- 努力賞「学習ボード」 2年 高澤さん

出品数も多い中で、2人はそれぞれ金賞と努力賞という大変素晴らしい賞を受賞しました。また、堀船中は今年で2年連続の優秀学校賞をいただきました。石川さん、高澤さん本当におめでとうございます。



津田梅子の生き方（6）～梅子・捨末 帰国の途に着く～

約 11 年の留学生生活を終えて、梅子と捨松はともに帰国の途に着きました。

梅子の帰国が近づくと、ランマン夫妻は、梅子のために数百冊の本を用意したり、日本に帰ればなかなか手に入らないピアノを贈ったり、何かと心を配ってくれました。ランマン夫妻にとっても、実の子どものように愛情たっぷり大切に育ててきた梅子との別れは、とても辛いことだったでしょう。

梅子は、ランマン夫人から大きな紙束を受け取っていました。梅子の手紙・作文等、幼少のときからの書きものの他に、日本からの手紙などがたんねんに整理してあり、ランマン夫人の覚え書きも添えてありました。ランマン夫人宛の母・初子の最初の手紙が原形を損なわれることなく現存していること等、梅子のアメリカ留学時代を今に伝える資料が残っているのは、すべてこうしたランマン夫人の行き届いた心遣いによるものなのです。

帰路は、東部から西海岸までの汽車での長旅でしたが、チャールズ・ランマンがシカゴまで同伴してくれました。シカゴに到着すると、同志社大学で教鞭をとるため日本に向かう予定だったデーヴィス教授夫妻に 2 人を託して、ランマンは梅子と涙ながらに別れました。1882(明治 15)年の 10 月 1 日のことでした。

その日は列車でハントリーまで行き、梅子と捨松はそこで改めてデーヴィス一家の歓待を受けると、12 日には、アメリカ大陸横断の旅へと出発しました。ミシシッピ川を超え、途中ユニオンパシフィック鉄道に乗り換え、14 日には、チェイエンヌという町に入りました。ここはデーヴィス教授が教会設立に関係した町で、彼の説教が、翌月 1 日の夕方に町のオペラハウスで行なわれる手筈になっていました。おかげで梅子と捨松はここで数日間ゆっくりできました。2 人が世話になったのは、デーヴィス教授の友人スターク氏の家でした。町の新聞が梅子と捨松のことを取り上げ、2 人は人口 5,000 人ばかりのこの町ですっかり有名人名になっています。記者が取材に来て大騒ぎになったといひます。それを受けて、捨松が代表して「私たちがアメリカにきた理由とその帰国について」と題した発表を堂々で行いました。

サンフランシスコに到着すると、今度はランマンの友人でカリフォルニア大学の秘書だったボンテ氏宅でお世話になりました。一行が乗る予定の太平洋航路「アラビック号」の出航まで 10 日ほどあったので、梅子と捨松は、カリフォルニア大学を案内してもらったり、夫人に買い物に連れて行ってもらったりしながら、最後のアメリカの生活をゆったりと楽しみました。

1882 年 10 月 31 日、アラビック号がサンフランシスコの埠頭を発ちました。しかし船は 2 日後から揺れ始め、5 日後には、立つことはおろかベッドに身を横たえることすらできない状況になったといひます。船の揺れがやっとおさまった 11 月 6 日から、梅子は船内にてランマン夫人に宛て手紙を書きました。帰国してからも、梅子は時間を見つけてはランマン夫人宛に手紙を書き続けました。その時その時の思いをまるで日記に記すように書かれた手紙の数は 450 通近くにも及んでいて、梅子とランマン夫妻の強い絆が窺えます。長い間それらの手紙は忘れられたままになっていましたが、梅子の死後 55 年を経た 1984 年に、まとまった形で津田塾大学本館屋根裏の物置から発見されました。現在では、当時の梅子について知る上で欠かせない貴重な資料となっています。

船が横浜に入港したのは 1882 年 11 月 20 日のことでした。横浜には、梅子と捨松の家族や、ともに留学した繁子らが迎えに来てくれていました。父親の仙に話しかけられた梅子は、キョトンとした顔をしたといひます。仙が何を言っているのかさっぱり分からない梅子は、日本語をすっかり忘れてしまっていたのでした。

梅子は、日本人であるというアイデンティティを持ちながらも、アメリカ人の心と言葉を持った 17 歳になっていました。



留学中の 3 人の少女の写真
(左から津田梅子・山川捨末・永井繁子)
【提供】津田塾大学津田梅子資料室